



くわなのウェルビーイング「消防団」 地域の防災を支える 消防団

「自分たちのまちを守りたい」という熱い思いを持った人が集う消防団。昨年、桑名市消防団には機能別団員(支援団員・学生団員)と重機隊が新設されました。パワーアップした消防団の今、新たに加わった学生団員、重機隊の活動を紹介します。

問 この記事については秘書広報課(☎24-1492 FAX 24-1119)
消防団入団については消防救急課(☎86-7486)

Q. 消防団は誰がなれますか?

A. 18歳以上であれば入団できます。

地域貢献に意欲があれば、誰でも消防団員になれます。現在、学生や女性も活躍しています。

Q. 活動はボランティアですか?

A. ボランティアではなく報酬があります。

年ごとの報酬や災害活動・訓練に参加した際の報酬があります。活動期間に応じて退職金も支給されます。

Q. どんない活動を行いますか?

A. 地域を守るさまざまな活動を行っています。

災害や火災への出動をはじめ、災害時に備えた訓練や地域の防災指導、巡回広報など平常時もさまざまな活動に取り組んでいます。

私たちと一緒に
まちの安全を
守りませんか?
消防団員
募集中



教えてくれたのは
消防団長
おさむ
中久木 治 さん

消防団は普段はそれぞれの仕事や生活しながら、地域を守るために活動する非常勤の地方公務員です。火災や災害発生時に消防・救助活動にあたるほか、平時も消火・救助訓練などを通じて災害に備え、地域の防災意識を高めるための活動も行っています。

本市では、現在648人の消防団員が活躍しています。団員減少に対応するため、昨年には学生やOBの消防職・団員を対象とした

地域密着で安全なまちづくりをめざす 防災の要「桑名市消防団」

「機能別団員」制度を導入しました。また、大規模災害への備えとして、県内初の重機隊を設立しました。今後は、市内25分団全てに重機隊員を配置するのが目標です。そのほか、救命講習に注力して応急手当指導員を増やします。

消防団は常時消防本部と連携し、地域一体となって防災力を向上させ、市民の安全を守ることをめざしています。

- 02 キラリ★くわな人
- 03 **特集** くわなのウェルビーイング「消防団」
地域の防災を支える消防団
- 06 待ち時間ゼロ!「行かない窓口」で手続きをもっとスムーズに!
- 07 桑名市博物館 特別企画展
桑名の豪商諸戸家の至宝
- 08 マイナ救急実証事業を実施します
- 09 こころとカラダを大切に 女性が自分らしく輝くまち
- 10 子育て広場、図書館・六華苑・博物館
- 12 メディカルニュース、くわな防災教室

- 13 人気の給食レシピ、みんなの掲示板
- 14 EVENT ALBUM(イベントアルバム)
- 16 くわなINFO
- 26 無料相談
- 27 スマートシティ取りくみレポート
市長まちなか探索
- 28 HAPPY BIRTHDAY
桑名のイトコ教えてください。

今月の表紙

桑名市消防団の学生団員です。20人の学生たちがそれぞれ熱い思いを持って、SNS広報活動や防火・啓発活動、訓練などに取り組んでいます。



三重県認知症希望大使
かつお
高井 勝男さん(82)

キラリ★くわな人

『三重県認知症希望大使』に任命された市内に住む高井さん。認知症希望大使は、認知症を正しく理解し、自身の経験を踏まえ、普及啓発を推進する認知症の人を対象に任命されます。

若い時はトラック運転手をしてきた高井さん。トラック運転手を辞めてからも、デイサービスの利用者の送迎などを行っていました。65歳のときに頭痛があり、病院を受診し脳の検査を行った際に、たまたま認知症であることが分かり、早期診断につながりました。

診断した医師が認知症の症状を自分ではなく家族ばかりに説明することや、家族がいつもと違

い、優しく接してきたことに戸惑いを感じていたそう。認知症と診断されたけれど、自分は何も変わっていないのに周りの対応や反応が変わったことに違和感を感じていました。

現在はデイサービスに通い、自宅で一人暮らしをする傍ら、市内のオレンジカフェや家族のつどいに参加し、認知症に関わる多くの人たちに、自身の体験したことを伝えていきます。

認知症になって、絶望感や残念な気持ちを持っている人に対し、認知症を悲観せず、希望を持って挑戦すること、認知症になっても自分らしく生きることができると伝えて、1人でも多くの人に新しい認知症観を知ってもらいたいと認知症希望大使としての意気込みを語ってくれました。



三重県認知症希望大使
任命式の様子(県HP引用)



実際の災害時を想定した訓練も行います。



重機を操る専門部隊 重機隊

まちの安全を 力強く切り開く 「もしも」の時の 頼れる新部隊

災害に備えて新設された重機隊は、シヨベルカーなどの重機を操り、がれき除去や道路確保などを専門に行う部隊。操縦資格を持つ29人の団員で構成されています。発足以来、安全管理体制の確立を最重要視しながら、悪路を想定した「登坂路走行訓練」や、バケツトやフォークといったアタッチメントを駆使する「整地」「障害物除去操作習熟訓練」などの訓練を行っています。昨年度は消防本部と合同で「震災対応合同訓練」を実施しました。

さまざまな訓練を通してさらなる操縦技術、要救助者を救出するための知識・技術を習得し、地域の人たちが安心して暮らせるように活動に取り組んでいます。

若い力で防災をPR 学生団員



座学と実習で応急手当の知識を学びます。



学生のアイデアや 行動力で、まちの 防災力向上に貢献

地域防災の担い手の育成を目的として新設された学生団員。現在、大学生や専門学校生など20人の学生団員が学生生活と消防団活動を両立しています。

主な任務は若者の視点を生かした広報活動です。具体的には、消防団の魅力を伝える動画制作やSNSでの情報発信、イベントでのチラシ配布など、幅広い世代に防災意識を啓発する活動を行っています。

専門知識の習得にも力を入れており、市民に救急法を指導できる「応急手当指導員」の資格を取得。地域住民向けの救命講習を実施し、地域全体の防災力向上に貢献しています。

若い力とアイデアで本市の防災力をさらに高め、地域が一体となって助け合える社会をめざします。

重機隊員インタビュー

桑名市消防団重機隊隊長
清水 邦彦 さん



Q. 重機隊員になろうと思ったきっかけは？

消防団長に声をかけてもらったことがきっかけです。以前は本業で建設業に携わっており、日頃から重機を扱っていました。これまでの経験を地域のために生かせると思い、参加を決めました。

Q. やりがいを感じるのどのような時ですか？

人力では動かせないような大きなブロック片などを重機で動かせた時です。また、有事の際にすぐに動けるよう日頃から訓練を重ねることで「地域を守るために全力を尽くすぞ」という意気込みを感じる事ができます。

Q. 隊員同士の連携で心がけていることは？

重機は危険が伴うため、安全確認は特に重要です。隊員同士で声掛けを徹底し、大きな身振りで合図を送るなど、意識を共有しながら活動しています。

Q. 地域住民の皆さんにメッセージをお願いします。

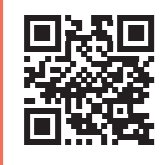
地域の重機隊ならではの小回りが利く機動力を生かして、いち早く現場に駆けつけ活動できるのが強みです。重機隊の存在を知っていただくことで、地域の皆さんに少しでも安心してもらえたらうれしいです。

桑名市消防団の活動は
こちらから！

消防団
広報



X
(旧 Twitter)



Instagram



学生団員インタビュー

山下 紅葉 さん
(看護学校2年生)



片桐 寛翔 さん
(大学2年生)



Q. 消防団に入ったきっかけは？

片桐さん 将来、消防士をめざしています。募集を知り迷わず入団を決めました。

Q. 活動のやりがい？

片桐さん イベントで、地域の人たちから「学生さんの力はすごいね」「ありがとう」と声をかけてもらったことです。

Q. 入団を考えている学生にメッセージをお願いします。

山下さん 自分たちが作ったチラシや動画に興味を持ってもらい、防災意識の向上につながる事がやりがいです。

自己PRに活用できる！

学生消防団 活動認証証明書

消防団員として1年以上活動した学生には、市長から「学生消防団活動認証証明書」が交付されます。この証明書は、就職活動の自己PRなどで活用できます。

申請：所属する消防団長に認証の推薦を依頼。

推薦：消防団長が市長に推薦。

審査：市長が推薦された学生の功績を審査。

交付：審査の結果、認証が決定された場合、市長から「認証状」、企業提出用に「認証証明書」を交付。